

超人気FP!

ABC ネットニュース

深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2017年11月7日

今月のトピックス 「株価はバブルか否か」

日 経平均株価は2万1000円台、同2万2000円台などと高値を更新する度に、21年 月振りの高値と言われていました。株価が上昇してポジティブな状況であることに変わりはないのですが、米国や欧州の株価は史上最高値更新などと頻繁に言われると、日本株のポジティブさは半減するようです。そこで筆者は「日本の株価は21世紀に入って初の2万2000円台に上昇」などと少し表現を変えるようにしています。どちらでも変わらないよと言われそうですが、本題は株価の表記の仕方ではありません。

21世紀に入って、日経平均株価は最も高い水準まで上昇しているのですから、現状の株価はバブルなのか否かということです。専門家の株価見通しは強気意見が目白押しで、中には3万円台へ上昇する相場が始まった、バブル期の史上最高値である1989年12月29日の3万8957円を更新するという意見も出ています。そんな強気見通しが増える中、株価はバブル相場に入ったのではないかとという声を聞く機会も増えていきます。バブル相場か否かは相場が弾けてみてわかることと言われるため、現時点でバブル相場なのか否か。はたまたバブル相場なのであれば、今は何合目に位置しているのかもわかりません。わかれば苦労しないというものですが、バブル相場は最後の上昇局面が最も上昇スピードが速いと言われます。株価チャートで表せば、チャート(ローソク足)が立つという形になりますが、それとて簡単に見分けがつくものではありません。

それでは、バブル相場を見分ける方法はないのかと言えば、筆者は新たな「投資尺度」、あるいは「価値尺度」などと言い換えられる指標的なものが出てくるのかに注目しています。たとえば、1990年までのバブル相場では「Qレシオ」なる指標が登場しました。企業の資産を純資産に含み資産を加えて計算するもので、土地(資産)持ち会社の株価を正当化するための投資尺度でした。2000年前後のITバブルは、「ドットコムバブル」と言われ、会社名やHPなどのアドレスに「.com」と付くだけで株価が上昇したのです。2008年のリーマンショックが起きる前の「住宅バブル」では、「サブプライムローン」や「プライムローン」なる言葉が乱れ飛んでいたのが記憶に新しいところです。サブプライムローン、プライムローンという言葉は、米国の住宅ローン関連では当たり前だったのかもしれませんが、住宅バブルが崩壊(崩壊前後)したときに私たちはその言葉を知ったはずですが、このようにこれまで見たことも、聞いたこともほとんどない言葉(尺度)が相場に流布され、頻繁に使われる(当たり前に使われる)ようになったら要注意と思っています。今はそのような言葉が流布され始めていないか耳を澄ませているところです。